

# J R 花咲線の問題について

平成29年11月20日

会派「創新」活動報告会

## JR「単独維持困難路線」公表1年の経緯

2016年 7月	JR北海道の島田修社長が鉄道事業の抜本的見直し方針を表明
11月	島田社長が単独での維持が難しい10路線13区間を発表(18日)
17年 2月	道とJR、北海道市長会、北海道町村会の初の4者会談。見直し協議促進で一致
2月	有識者や首長らによる道の鉄道ネットワークワーキングチーム(WT)が石北線と宗谷線を念頭に路線維持を訴える報告書をまとめる
4月	宗谷本線活性化推進協議会がJRと協議。単独維持困難路線の発表後初
6月	高橋はるみ知事がJRへの国の抜本支援を求める要請書を国土交通相に提出
7月	JRが全役員20人の役員報酬削減を発表
10月	JR北海道再生推進会議が、高橋知事に対し路線見直しの地元協議などへの積極的な関与を要請する方針を決定(23日)
	道とJR、市長会、町村会の2回目目の4者会談。国に支援を求めることでおおむね一致(28日)
11月	札沼線の沿線4町長が13日、バスを含めた代替交通の検討を確認、JRと具体的協議へ

## 単独維持困難10路線13区間の協議状況

- JRと協議中(協議入り予定も含む)
- JRが会合の中で区間や経営の状況などを説明
- JRが各自治体ごとに説明
- JRが「上下分離方式」を軸に地元と協議の方針
- JRが廃止・バス転換の方針



2017年11月17日  
北海道新聞より

# J R 花咲線に関する根室市関連の状況・経過

年月日	経過	備考
2015年09月10日	J R 北海道より市に対して花咲駅の廃止について書面を持参し説明	
2015年09月30日	J R 北海道は翌年3月のダイヤ改正と併せて「駅の廃止」と「在来線の道内全体15%減」を発表。	極端に利用の少ない駅の廃止 ※花咲駅は過去五年間の乗車人員調査の結果平均0.2人/日
2015年10月19日	J R より根室市へ花咲線の減便について説明 ※花咲線 列車8本減便し13便へ	※市長より議会へ報告（22日）
2015年10月29日	J R への要請方針決定（根室市）	公共交通機関としての根室本線の運行体制の維持、平成28年3月のダイヤ改正に関わる慎重な対応を要請することし、沿線市町と調整することを決定。
2015年11月24日	J R 北海道、道議会、国土交通省北海道運輸へ要請活動を実施	根室線沿線自治体と連携
2016年03月25日	花咲駅廃止	※3月のダイヤ改正で減便
2016年07月	J R 北海道より鉄道事業の抜本的見直し	
2016年11月18日	J R 北海道は「J R 単独では維持困難な線区」について公表	※10路線13区間
2017年02月	道、J R 北海道、市長会、町村会の4者会談	見直し協議促進で一致
	北海道の鉄道ネットワークチームが「将来を見据えた北海道の鉄道網のあり方について」報告書をまとめる	
2017年06月	北海道知事がJ R への国の抜本支援要請書を国都交通相へ提出	6/26根室地方総合開発期成会根室本線対策特別委員会開催（J R より説明）
2017年08月		8/24釧路地方総合開発促進期成会と根室地方総合開発期成会合同意見交換会開催

# J R 花咲線の状況

- J R 単独では維持することが困難な線区 / 輸送密度200人以上2,000人未満の線区 (J R が上下分離方式を軸に地元協議としている路線)
  - ※約100年経過した老朽土木構造物が多く存在
  - ※維持管理に苦慮している路線
  - ※輸送密度も500人未満と利用が少ない路線

橋梁・トンネルの補修や車両更新に今後20年間で約42億  
(北海道が試算)

- J R 花咲線の輸送密度と営業係数
  - 営業キロ数 135.4 K m
  - 平成27年度輸送密度 449 (人 / キロ / 日) H28 435
    - ※昭和50年は1,879 の約 1 / 4 に減少
  - 平成27年度1列車平均乗車人数 26人
  - 平成27年度営業係数 517 (100円の収入のための費用) H28 542



# J R 花咲線存続に対する市の考え方

- 北方領土隣接地域と道央圏を結ぶ唯一の鉄道として、極めて重要な社会インフラ（3月定例会月議会答弁）
- J R 花咲線の維持確保に向け、関係自治体や北海道市長会とも連携し、国や北海道に対して責任ある支援と主体的かつ積極的な対応を求める（10月定例会月議会答弁）
- 今年5月、根室地方総合開発期成会に根室管内一市四町の首長と議会議長を委員とした「J R 根室本線花咲線対策特別委員会」を設置した。
- 釧路地方総合開発促進期成会に設置された「J R 花咲線・釧網線対策特別委員会」との合同会議を開催（8/24）するなど、路線維持に向けた検討を行っている。
- 根室地域や沿線自治体と連携を図りながら、鉄道網の確保対策に鋭意努める

# 将来を見据えた北海道の鉄道網のあり方

北海道運輸交通審議会 地域公共交通検討会議 鉄道ネットワークワーキングチームの報告 (2017/2/7)

- ◆ 広大な北海道であり線区ごとに公共交通網の中で果たす役割は異なる
- ◆ 北海道の将来像や交通環境の変化を踏まえ鉄道網を6つの類型に区分し、将来を見据え方向性を検討

1. 札幌圏と中核都市等をつなぐ路線
2. 広域観光ルートを形成する路線
3. 国境周辺地域や北方領土隣接地域の路線
4. 広域物流ルートを形成する路線
5. 地域の性格を支える路線
6. 札幌市を中心とする都市圏の路線

北方領土返還運動の拠点として重要な役割を有する北方領土隣接地域は、元島民の高齢化が進んでおり、公共交通機関の果たす役割が重要となっている。

また、地域内の高規格幹線道路網の整備が進んでおらず、北方領土における共同経済活動等が期待される中、鉄道の役割を十分考慮する必要がある。

# JR花咲線の存続議論を進める上で地域が取り組むべき役割

## 地方自治体の役割

- 地域における鉄道の役割と必要性に対する議論
- JR北海道と一体となり地域の状況や、線区の特性に合った鉄道網を持続的に維持していく方策の実施
  - ① 地域交通の確保に向けた検討
  - ② 実効性のある利用促進策の検討とその実現
  - ③ 各種サービスや鉄道事業の質の向上に向けて協力

## 根室市として検討すべきこと

- 花咲線の利用実態を知ること
- 利用促進に向けてできる様な取り組み・アイデア等を検討・実現すること
- 地域として花咲線のサービス向上にどの様に関わることができるのか検討・協力すること
- 地域交通全体の中での花咲線の位置づけ・役割を検討・整理すること
- 上下分離も含め、地域の財源負担のあり方、国等への支援を求めるための具体的な「花咲線の安定的持続に対する」計画をまとめること

J R 花咲線の未来を共に考えましょう！



根室市観光協会 JR花咲線紹介ページ  
<https://www.nemuro-kankou.com/activities/hanasaki-line/>